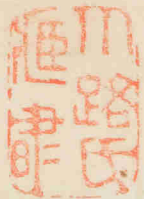


良美灑筆

全



鬼物を画くもや

もく 拍馬 紙のうを

あしし 古人乃

確言か 画くは 眼前の萬

オニバケモノ

クラクゲニ

ウゴカヌコトバ

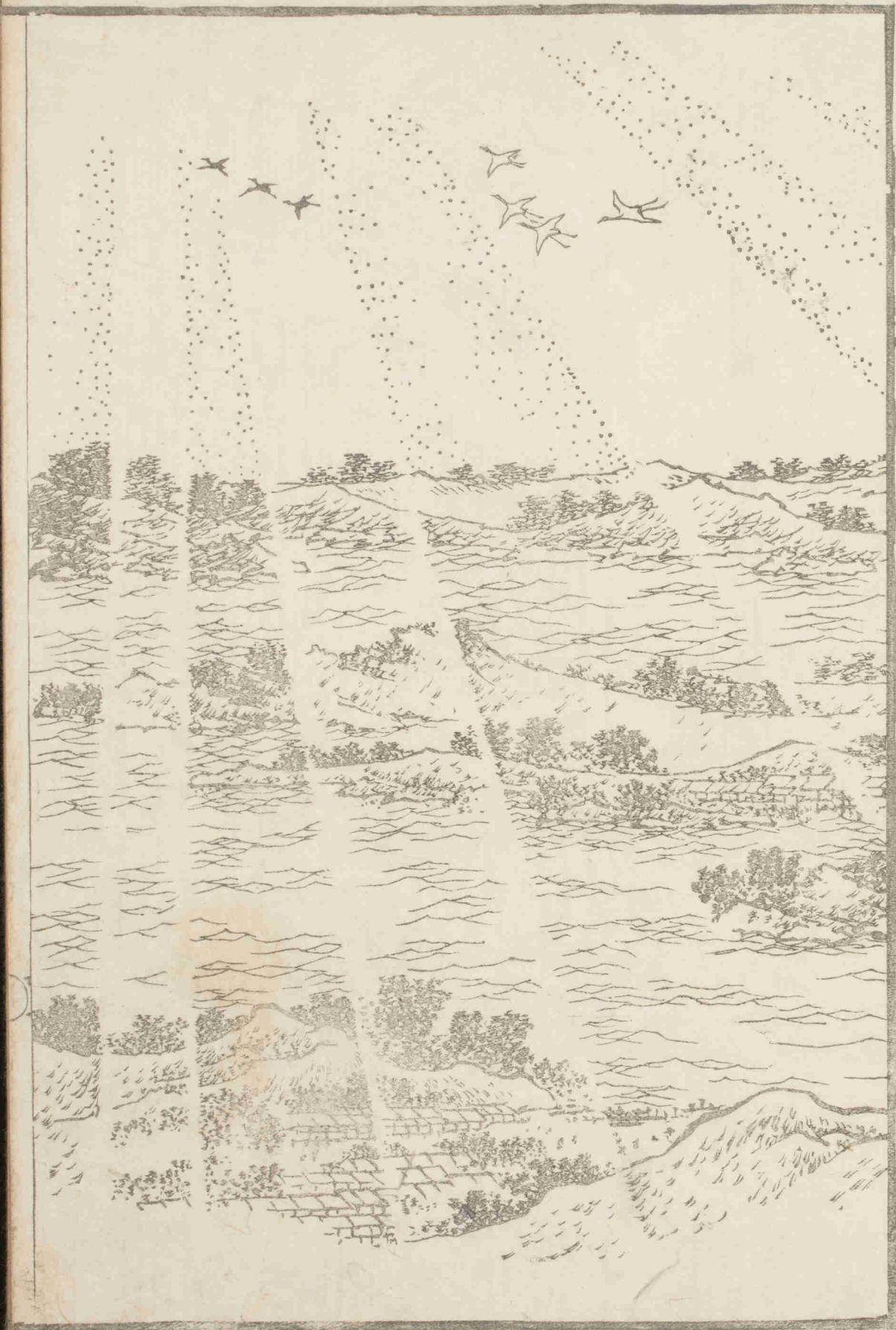
象をけしよりそ 寫しゆんや 目力を盡し
心思を盡し ころそ 鳥をけんと 紙し人ハ 語
らんをけし けあふそく 雪をむき けくそかき
日々 戴斗箱の妙を け余り 云紙 け人余
物ハ 箱の心を 用ふる 乃 漆を 厚きハ 脹せり 心紙
盡し けあふそく けいそか 物ハ けあふそく けいそか けいそか

又余のそをみて見人老を井い即ち
 持もく箱も衆妙を衆もく一家談なせる
 一書を介して病めたののう具あるもの
 然る
 答題^{セニダイ}うえも箱の良居量景にあつて筆談
 海^ゲきくあとおもふに貴心樂事も比中
 あつても又何そ余のそをゆらん

又取三居五片

酒人題

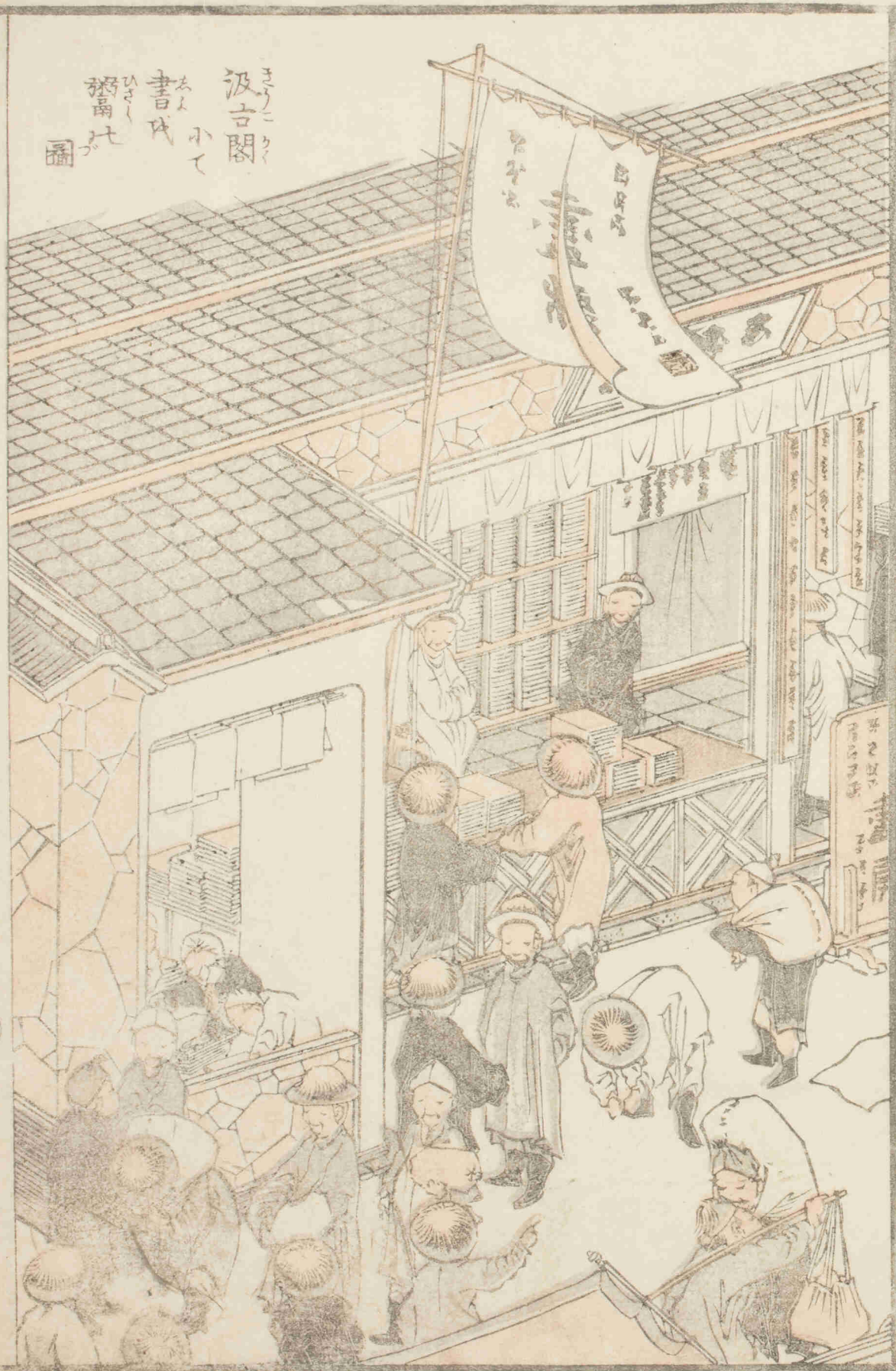




七



汲古閣
 書代
 小
 汲古閣
 書代
 小



雪
中
代
万
歳





春雨比
往來







雪ゆき
解ゲ
川カハ









李
鍾
馥

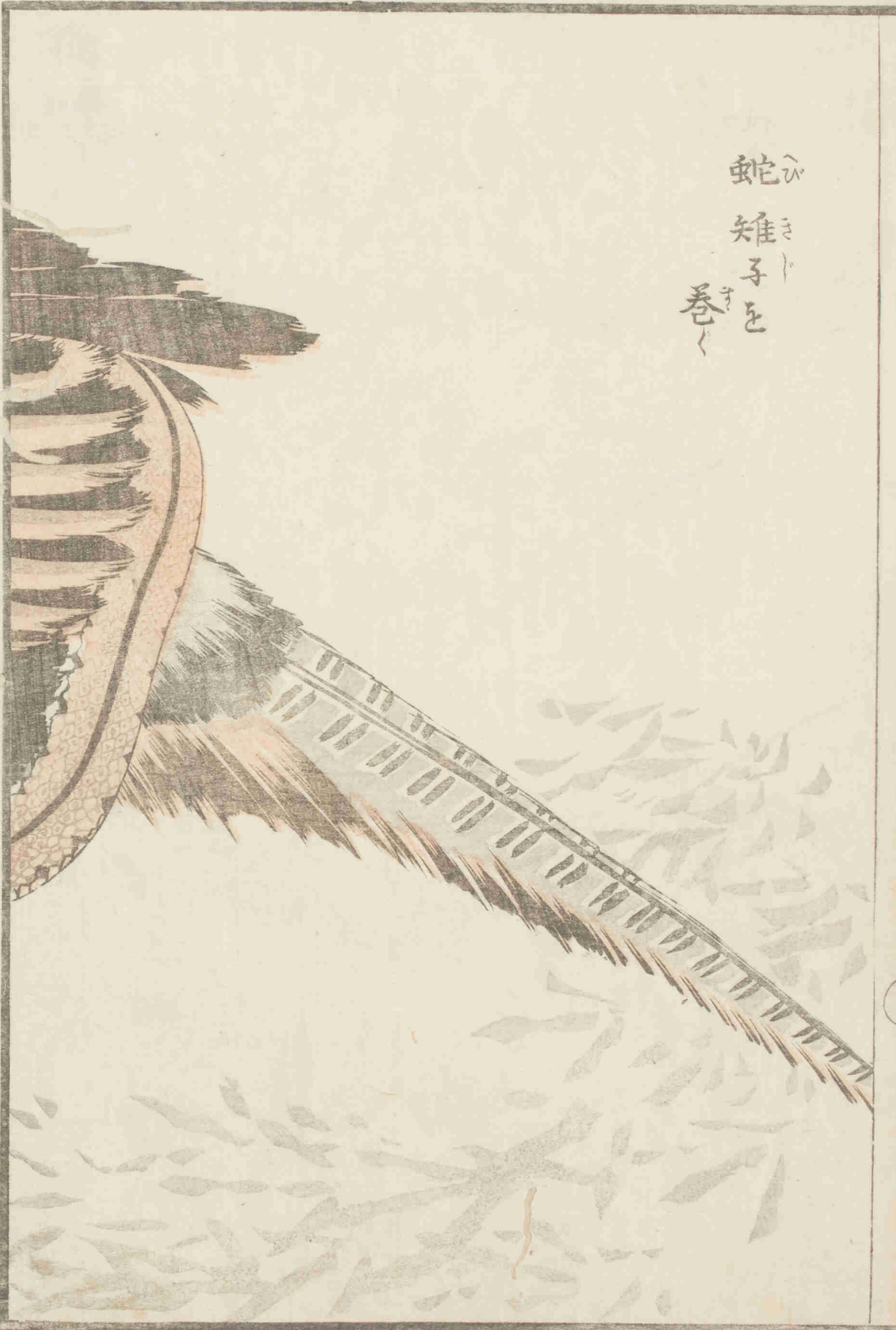




夏
比
住
来



蛇へび
雉き子こを
巻まく





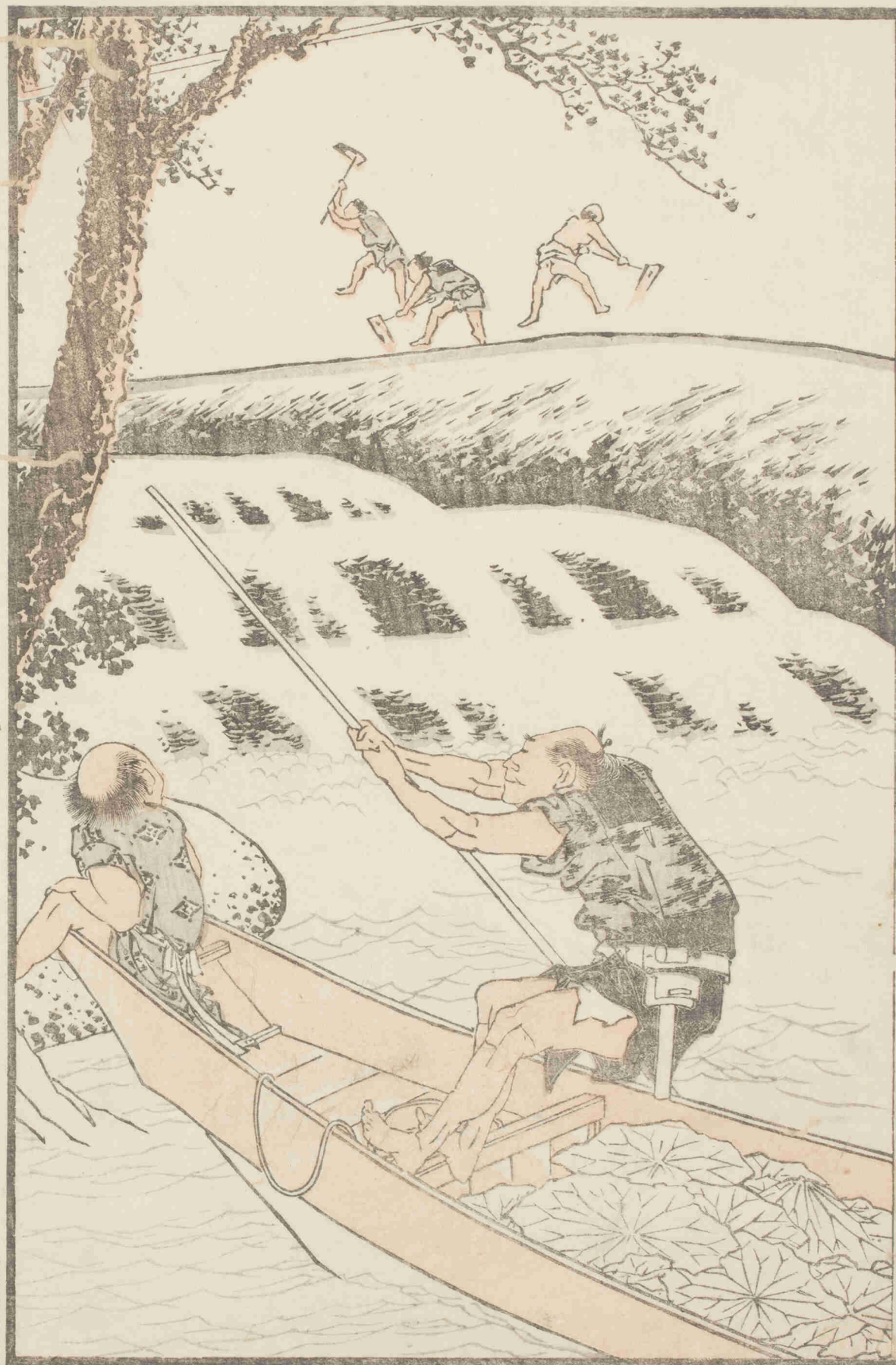
山晚
水暮



秋
七
廿



蓮切
れんぎり



氷
邊
の
月



山
家
の
月



月夜
往來



野の
分



盲人越川



悟道





郭子儀

ゆえ
雪に
曙



餅
播







青陽 せいやう



東都画工

葛飾戴斗筆

尾陽名古屋

校門人

月光亭墨仙
月齋哥北戴政鷹

書林

江戸糺町平川町二丁目

角丸屋甚助

尾州名古屋本町七丁目

永樂屋東四郎

同 傳馬町

美濃屋清七

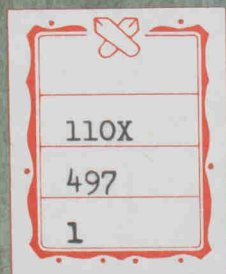
同 中市場町

美濃屋市兵衛

同 小牧町

美濃屋伊六





110X

497

1